

出産のご報告

第3期 OG 今野 祐子
(旧姓 舟木)

昨年のOB・OG総会では大きなお腹で出席していた私ですが、5月に娘を無事出産し、ママになりました。今回の寄稿にあたって、出産についてというお題をいただきましたので、ご報告させていただきたいと思います。

私の妊娠生活と出産を振り返ると、想像していたよりも楽で、あっという間だったような気がします。私は Mars Japan Ltd. という、M&M'S やスニッカーズなどのスナック、Pedigree などのペットフードを扱う外資系メーカーに勤めているのですが、女性社員の割合は多いものの、産休を取得した人が今までにたった1人、復帰した人は0人という状況でした。しかしながら私の妊娠中は、同時に他3人妊婦がいるという、Mars においてかつてないベビーブーム。社内的に妊婦への理解と協カムードが高まり、残業が減ったり、人事制度が改革されたりと、非常にラッキーな環境でした。産休が始まる出産予定日の6週間前頃までは普通に仕事し、ツワリもあまりなく、少しずつおなかが大きくなっていくことやヒールを履かないこと、お酒を飲まないことを除けば、本当にいつもどおりの生活をしていました。ワンピースが流行っていたおかげで普通のお店の服を着られたので、マタニティウェアもジーンズ以外は買わなかったです。なので、本当におなかの中に赤ちゃんがいるのか？本当に私がママになっちゃうのか？と、なんだか実感の湧かない日々を過ごしていました。

しかしながら、さすがに臨月に近づくとお腹の大きさも半端なく、体重は過去最高を記録、赤ちゃんが動くとおなかも動くようになり、実感が出てきます。そして、予定日より1週間早く出産の日がやってきました。出産については、とにかく「痛い」というイメージだと思います。確かにその通りでした。病院では、両隣の部屋から「いったーい！！」という叫び声が聞こえてきました。私の場合は痛すぎて声も出なかったです。しかしながら、陣痛開始から3時間半での出産と、初産にしては早く、安産だったので、(多くの人は半日くらいかかるそうです)分娩台の上で朦朧としながらも、「これなら私、あと何人か産める…」なんて思っていました。出産も一生のうちでそう何度もあるわけではないですし、陣痛も限られた時間だけ、何より、もうすぐ我が子とご対面が待っているというポジティブなことなので、頑張る力が湧いてくるのかなと思います。私は夫に立ち会ってもらったのですが、すごく心強かったですし、誕生の瞬間と一緒にいられたのはすごく良い経験になりました。そして夫が撮った、娘が産まれた瞬間のビデオは、今見ても感動です。これは、娘が大きくなったら見せようと思っています。

育児は、産後1ヶ月くらいまでが一番ハードでテンパっていました。ゆったりとした気持ちで「赤ちゃん可愛いー」なんてひたる余裕は、正直なかったような気がします。産後、全身の体力が限りなくゼロに近くなったまま、育児スタート。昼も夜も夜中も1~2時間おきの授乳、ゲップ、おむつ換え、あやして...と、全てにおいて慣れないことのヘビーローテーションで、とにかく一生懸命でした。出産の興奮と睡眠不足とで頭もラリラリだったからだと思いますが、とても涙もろくなり、何かお世話をひとつでも間違え

たら大変なことになってしまうのではないかと、なんて気にしすぎていました。

しかし1ヶ月くらい経つと、産後の疲れや体力も回復し、精神的にも余裕ができました。毎日のお世話にすっかり慣れ、ちょっとくらい雑に扱っても大丈夫だろ〜と大胆になってきます。赤ちゃんに表情ができてきたりすると、どんどん育児が楽しくなってきたり、泣いても笑っても「あー可愛い」と毎日うっとり。今ではすっかり娘にメロメロ、友人の結婚式に出席しては、花嫁の親の気持ちになって泣いてしまうようになりました。

育児が軌道に乗ってくると、今度は仕事をどうしようかということについての悩みがでてきます。女性の多くは、育児と仕事との両立をどうするのか考えると思います。私は、時間短縮勤務で復帰しようと思っていました。ところが産後、夫が転勤。今の職場には通える距離ではありません。働きたいという気持ちは変わらないのですが、子育ては夫婦一緒にしていきたいという気持ちもあるので、今の自分に合った働き方を改めて探してみようと思っています。幸い、育休がもう一年取れそうなので、育児をしながらじっくり考える予定です。

最後に、これから社会に出る小野ゼミ現役生女子の方は、仕事を選ぶ際に、福利厚生や、出産後の復帰しやすさ、ワーキングマザーがどのくらいいてどんな働き方をしているのかなどは、是非チェックしておくと思いいます。もちろん、全くそういった前例のない会社でも、自分が第一人者になっていくというやり方もあります。仕事と育児、どちらもしたい人は、どっちかしか選べないということはないと思うので、家族や、会社の上司や同僚などまわりをうまく味方につけて、または働き方や職場を変えて、自分らしくいられたら良いなあと思います。



みずきちゃん